

vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

6 JUNE 2003

CONTENTS

水戸室内管弦楽団第54回定期演奏会1,2
最近の公演から3,4
ネットマ5
高山三智子ピアノリサイタル	
公演延期のお知らせ5
インフォメーション6



写真上:水戸室内管弦楽団

下:水戸室内管弦楽団第44回定期演奏会(2000年11月、ヴァイオリン独奏:ミリヤム・コンツェン)より



MC O第54回定期演奏会は、「ひと粒で3度おいしい」演奏会です。 6/7(土) 6/8(日)水戸室内管弦楽団第54回定期演奏会

今年2月に行われた小澤征爾指揮による第53回定期演奏会(オール・モーツァルト・プログラム)の興奮もさめやらぬうちに、水戸室内管弦楽団(以下MCO)第54回定期演奏会の季節となりました。昨年11月の第51回定期演奏会以来の「指揮者なし」演奏会となる今回。プログラムはそれぞれ特色の違う3曲をご用意し、いわば「ひと粒で3度おいしい」MCOを味わっていただくという趣向です。

コンツェン再登場

今度はメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲

3曲のうちまさきに目を引く曲目は、ドイツ・ロマン派の大家フェーリクス・メンデルスゾーン(1809~47)のヴァイオリン協奏曲 ホ短調 でしょう。「メンコン」の愛称で親しまれ、ロマン派の、というより古今東西あらゆるヴァイオリン協奏曲の中でもっとも有名な作品と言えるこの協奏曲、MCOで取り上げるのは初めてです。とはいえMCOの過去の曲目を振り返ってみますと、メンデルスゾーンの作品は少なからずとりあげられ、そのどれもがMCOの演奏史における忘れ難い1ページとなっています。たとえば1992年の第12回定期演奏会ですすでに 弦楽八重奏曲 の弦楽合奏版という意欲的な試みがなされていますし、95年の第22回定期演奏会では 弦楽のための交響曲第10番 が取り上げられ、MCOでは通常ヴィオラを弾く川崎雅夫がこの曲で初のコンサートマスターを務めています。そして96年の第25回演奏会(このとき初の館外公演として大阪フェスティバル

ホールに出演)では、記念碑的な「指揮者なし」による交響曲第4番 イタリア の演奏が実現(コンサートマスターは潮田益子)。98年の第36回演奏会にはヴァイオリンのライナー・クスマウル、ピアノのアンドレアス・シュタイアーがソリストとして共演、ヴァイオリン、ピアノと弦楽合奏のための協奏曲のシャープな演奏を聴かせました。そして2001年の第47回演奏会にはライナー・クスマウルがゲスト・コンサートマスターとして再登場、交響曲第3番 スコットランド を入念かつ雄大なスケールで演奏し、大絶賛の拍手が巻き起こったのは記憶に新しいところです。MCOとメンデルスゾーン、相性がいいのかもしれない。そして真打名曲、ヴァイオリン協奏曲の登場というわけです。

さて独奏者は、2000年の第44回定期演奏会に登場、ブルッフのヴァイオリン協奏曲 第1番で堂々たる名演を聴かせたミリヤム・コンツェン。初めてのMCOとの共演は、指揮者なしゆえの室内楽的な対話と、独奏者とオーケストラが競い合うコンチェルトの醍醐味とを、共に味わわせてくれるものでした。メンデルスゾーンの人口に膾炙した(しすぎたほどの!)協奏曲を、新鮮にリフレッシュさせてくれる共演を期待しましょう。なお記事の最後にコンツェンさんへのeメール・インタビューを掲載しましたのでご覧ください。またメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲に関しては、今月の「ネットマ」欄もどうぞ。

MCO 管楽セクションの饗宴! グノーの小交響曲
メンデルスゾーンの協奏曲をはさむ2曲にもご注

目を。まずMCOの管楽セクションを愛する方、おまたせしました。久しぶりに、管楽合奏曲の登場となります。手許の資料で振り返ってみましたが、なんと管楽合奏曲は92年の第9回定期演奏会におけるモーツァルト ナハトムジーク 以来11年ぶりの登場です!このときの演奏会はNHKで放映されましたので、ビデオに撮られた方はあらためてご覧になられるのも一興でしょう。あれから11年、今回の演奏会で管楽セクションはいっそう練れた、融通無碍のアンサンブルを聴かせてくれるに違いありません。今回も、工藤重典(フルート)、宮本文昭(オーボエ)、水野信行(ホルン)という不動のメンバーに加えてヨハネス・パイツ(クラリネット)、ゲオルク・クリュッチュ(ファゴット)らおなじみの海外ゲスト奏者を含む名手たちが揃った豪華布陣です。

さて曲目は19世紀フランスの作曲家、シャルル・グノー(1818~93)の小交響曲 変ロ長調。グノーといえばオペラの大家として ファウスト や ロメオとジュリエット といった作品が今でもしばしば上演されます。また 聖チェチーリアのための荘厳ミサ曲 はアマチュア合唱団もよく手がける作品ですし、2曲の交響曲はビゼーの交響曲と共にフランス交響曲の佳品として近年再評価されつつあります。しかしなにより人気が高いのはパッサの平均律クラヴィア曲集 第1巻第1番のプレリュードを換骨奪胎した アヴェ・マリアでしよう。グノーのメロディ・メーカーぶりが十分に発揮された名曲です。

さて 小交響曲 は前掲2曲の交響曲とは別の



ミリヤム・コンツェン

作品で、1888年という晩年の作。フルート1、オーボエ2、クラリネット2、ホルン2、ファゴット2という編成のために書かれました。4楽章からなる立派な交響曲ですが、ダンディなおじいさんの洒落た口説き文句のごとく、嫌味のない、粋で洗練された音楽でいっぱいの楽しい作品です。この曲、タファネルという当時の名フルーティスト率いる管楽器協会のために書かれており、タファネルに敬意を評したのか、存分に活躍する各パートの中でもフルートが半歩ほど前に出た扱いになっています。タファネルはフランス近代フルート楽派の祖と呼ばれる人であり、タファネル以降最高のフランスの名奏者であるランバルに師事した工藤重典が登場する今回の演奏は、いわば脈々と受け継がれる「フレンチ・スクール」の系譜を体験させてくれるかもしれません。

そして弦楽セクション全開!

チャイコフスキ フィレンツェの思い出
管楽器が活躍したなら当然弦楽器も、というわけでコンサート最後の曲目はMCOの弦楽セクションによるピョートル・イリイチ・チャイコフスキ(1840~93)の フィレンツェの思い出 弦楽合奏版。オリジナルは弦楽六重奏曲で、MCOにとってはもはやお得意の、「拡大編成による室内楽」です。しかしいつもとちょっと違うのは、この曲がもともと室内楽といっても交響的なスケールを企図して書かれた作品であるということ。チャイコフスキにはメック夫人というだいじなパトロン兼友人がいましたが、この曲はそもそも彼女が健康を害してコンサートに行けなくなったため、自宅でもオーケストラのような響きの室内楽を楽しめるように、という思いやりから作曲されています(完成前に友情は破綻しましたが)。ならば大編成で演奏したら、もっとすごいのでは?というわけで、実際

に室内オーケストラが演奏することも時々あります。MCOが演奏したら...そう、記念すべき第1回定期演奏会で鳴り響いた同じチャイコフスキの 弦楽セレナード にも比すべき、ゴージャスなもうひとつの 弦楽セレナード が誕生するに違いありません。そして、イタリアの古都フィレンツェを愛したチャイコフスキの思い出がこめられたこの曲を演奏するにあたり、MCOメンバーにとっては2度のヨーロッパ・ツアーで熱烈な歓迎を受けた街フィレンツェの思い出が二重映しとなり、さらに甘美で豊かなサウンドとなって立ち現れてくるのでは...そんな期待すら抱いてしまうのです。ロシアのサンクト・ペテルブルク音楽院(当時のレニングラード音楽院)で学んだ潮田益子がコンサートマスターという点にもご注目。

さて、いかがでしょうか。「指揮者なし」演奏会だからこそ味わえる3種のテイスト、たっぷりお楽しみいただければ幸いです! 《矢澤》

ミリヤム・コンツェン インタビュー

Q1. コンツェンさんは、2000年秋、水戸室内管弦楽団(以下MCO)とブルッフの協奏曲で初共演を果たされています。あの時の演奏は今でも私たちに強い印象となって残っていますが、コンツェンさんにとってMCOの印象はいかがでしたか。

A. 水戸室内管弦楽団との演奏会は、私にとっても大切な、貴重な価値のある経験をさせてくれました。音楽を共に創造してゆく時、なにか特別な、一瞬のすきもない集中力のある雰囲気がありました。特記したいのは、この創造過程の間にMCOの方々から“音楽への感動”が常に伝わってきたことです。このような瞬間は、音楽家としてこの上なく幸福な時なのです。

Q2. 「指揮者なし」で演奏することはMCOの重要な特徴の一つですが、通常指揮者のいるフル・オーケストラと演奏されるブルッフの協奏曲を、「指揮者なし」のアンサンブルで共演されたご感想についてお聞かせください。

A. 指揮なしで演奏することによって、いっそう集中力高く共演に臨めました。指揮者がいる場合との違いを面白く感じたのはリハーサル時です。通常私はほとんど指揮者と話し、指揮者は私と話したことをオーケストラに伝えます。指揮者を通さず演奏者の方々と直接ディスカッションすることになり、私は音楽的にも人間的にもとても“室内乐的”な雰囲気を味わいました。また、MCOの共演において魅力的だったのは、音楽的に調和がとれている

ので、ひと時の共演においても何ら問題がないということです。

Q3. ブルッフの協奏曲同様、メンデルスゾーンの協奏曲はロマン派ヴァイオリン・コンチェルトの傑作として広く愛されています。コンツェンさんのこの曲についての印象、また個人的な思い出などおありでしたらぜひお聞かせください。

A. 大きな規模のオーケストラと共演する経験が積んだのは、メンデルスゾーン協奏曲が最初でした。子供のうちにこの作品と“取り組んだ”ことから、この協奏曲との特別なつながりが生まれました。この曲を演奏するとき、その後勉強した協奏曲の大曲を演奏するときとは、異なる意識状態が生じます。ちょうど、子供のころに心に刻まれた歌や詩のように。たぶんこれは利点だと思いますが、同時に演奏の度ごとに新しく体験し直すこともとても大切です。

Q4. コンツェンさんがこの曲を解釈される上で重要視されているポイントはなんでしょうか。

A. この協奏曲からは新鮮なエネルギーがふりそいできます。しかし、ただ夢中になって没入してしまうわけにはいきません。とても高貴(ノブル)です。おどろくほど自然で、深い音楽です。演奏上で大きな課題は、ロマン派の作品でありながら古典的に演奏することです。つまり形式の保持、音色、そして音楽表現の点において、古典的であるということです。

(私は、メンデルスゾーンがこの協奏曲を作曲していたときに家族と滞在していた、ドイツのフランク

フルト近くの静養地へ行って見たことがあります。めったにないほどたくさんの種類の小鳥たちが集まるという丘に登りました。メンデルスゾーンが滞在中毎日のように散歩で来たという、菩提樹の大木が数本しげっている丘で、“ヴァイオリン協奏曲の3楽章はここで生まれた”と言われています。(メンデルスゾーンは大木のデッサンを残しています)

Q5. 最後に、前回の演奏会における水戸芸術館コンサートホールATMの聴衆の印象はいかがでしたでしょうか。そして、コンツェンさんの再訪を心待ちにしていた聴衆へのメッセージをぜひ!

A. 強い集中力と音楽への喜びがはっきりと感じられる聴衆の方々の前で演奏できたのは、すばらしいことでした。私はこの特別な雰囲気から、強い影響を受けました。再会がとても楽しみです。

《インタビューア:矢澤》
(2003年5月、eメールによるインタビュー)

【ミリヤム・コンツェンのCD発売中】

サン・サーンス、ドビュッシー、フランク:ヴァイオリン・ソナタ集

[アルテ・ノヴァ BVCE38039]

ヴァイオリン・リサイタル(ファリャ:スペイン舞曲、ラフマーニョフ:ヴォカリーズ、ラヴェル:ツイガーズほか)

[アルテ・ノヴァ BVCE38040]

* 以上、水戸芸術館ミュージアムショップ「コントロールポアン」で取り扱い中。

最近の公演から

FEBRUARY MARCH



1



2



3



4



5



6



7



8

水戸室内管弦楽団第53回定期演奏会
(2月8、9、10日)

音楽顧問・小澤征爾の指揮、オール・モーツァルト・プログラムでお届けした水戸室内管弦楽団(MCO)の第53回定期演奏会。幕開けは、セレナータ・ノットゥルナ K.239。独奏パートと合奏パートから構成される作品だ。独奏を務めたのは川崎洋介(Vn I)、田中直子(Vn II)、モーリン・ガラガー(Va)、永島義男(Cb)。4人ともMCOが誇る腕利きだが、とりわけ若い川崎のしなやかな名演が印象的だった。2曲目は、MCOメンバー・潮田益子の独奏で ヴァイオリン協奏曲第5番 K.219。洗練とした潮田の演奏と小澤が導くオーケストラのダイナミックな演奏が融合した。3曲目は、森麻季(ソプラノ)の独唱でモテット エクスルター・テ・イウピラテ K.165(158a)。森の艶やかで表情豊かな歌唱は、彼女のこれからの大いなる飛躍を予感させた。そして、演奏会の最後を飾ったのが、交響曲第35番『ハフナー』K.385。それまでの異なる曲種の3曲の演奏を通して浮かび上がった多彩なモーツァルト像が、堰を切ったかのように一気に流れ込み、そして核心へと向かうかのような、熱を孕む演奏であった。

公演に先立ち、2月7日および8日に公開リハーサルを実施。水戸市および近郊の小、中、高、大学生およそ1,500名がホールを訪れた。《中村》アンケートから 小澤さんとMCOの音が生まれる瞬間に立ち会えて幸せです。(水戸市:A.I.さん) この日の演奏会ほど感動し、同時刻に生きている喜びを感じたことはありません。また、とても大きな力をいただいた感じがします。(水戸市:S.I.さん) セレナータ・ノットゥルナ の室内乐的親密さ、潮田さんの銜いのない息のあった演奏、森さんの人を幸せにする美声、圧巻は ハフナー だったと思います。(M.S.さん) 念願かなってのMCOのコンサートに來られ、至福の時を過ごしました。水戸で世界的な名演奏 感動をほんとうにありがとうございました。(水戸市:H.R.さん) 小澤さんの飾らないお人柄がにじみ出て、ソリスト集団とも言えるMCOの見事なアンサンブルと音の深さが引き出されて、素晴らしい一体感を感じました。(さいたま市:S.Y.さん)

ATMアンサンブル第9回碧南演奏会 & 第18回演奏会(2月22日、23日)

「ウィーン幻想交響樂」の副題のもと、シェーンベルクとブルックナーというウィーンに生き、ウィーンと格闘した2人の作品で構成した今年のATMアンサンブル(以下AE)演奏会。前半はシェーンベルクの ファンタジー(豊嶋泰嗣がAEでは初めてヴァイオリンを演奏)と 室内交響曲第1番(ヴェーベルン編曲によるピアノ五重奏版)、後半はブルックナーの 交響曲第7番(アイスラーによる室

内アンサンブル版の日本初演。原田幸一郎指揮)という難曲・大曲を、AEと若手ゲストたちが全力投球の熱演。水戸での演奏会は片山杜秀氏がブレイクを行った。重量級の内容にもかかわらず碧南、水戸両演奏会共に客席は盛況。ブルックナー7番が終わった直後、一瞬の間を置いて静かに巻き起こった拍手は感銘をかみしめるかのように熱烈に高まり、いつまでも続いた。演奏会にはメディアも注目し、日本経済新聞3月6日付の「文化往来」欄にも演奏会のレポートが掲載された。《矢澤》

アンケートから 「すごい」演奏会でした(水戸市:A.I.さん) ブルックナー、出だしの朗々としたチェロにぞくぞくと、70分の大曲をかたずを飲んで聞きました。オーケストラに負けなすばらしい響き、原田さんはじめ9人の奏者の皆さんごくろうさまでした。感謝感激です(水戸市:M.K.さん) 全国のブルックネリアンにぜひ聴かせたいですね。日本初演の素晴らしいコンサートを聴け幸福です。改めてATMの企画力に感服します(高萩市:A.E.さん) 以前から信じてきたブルックナーの真の姿に触れた気がしました(無記名の方) シェーンベルクの音楽は比較的馴染みにくいものが多いと思う。しかし今日の演奏はとても聴きやすく、感激した(水戸市:無記名の方) 知らない曲を予習してコンサートでできとまた違った楽しみがあります。これから普通耳慣れた曲ばかりでなくいろいろな曲をきかせて下さい(無記名の方)

合唱セミナー2003(3月2日)

日本の合唱界において作曲・指揮の両面で大活躍の松下耕氏を迎えた今年の「合唱セミナー2003」。松下氏の軽妙な語り口調による指導に乗せられて、ホールに歌声と笑い声が交互に響き合う、あつという間の6時間だった。セミナーは松下氏が即興で作曲した 水戸のうた から始まった。これは8小節の間にミド(水戸)の音程が8回登場する、というもの。これで508名の参加者の心を引き寄せながら、自然と3度音程の練習に入っていく。松下氏の指導にはこうした肩肘の張らない「自然さ」が随所に見られた。課題曲 合唱のためのたのしいエチュード1の練習に入っても、参加者は、にわとりを歌いながら日本のわらべ唄にみられるリズムに触れ、よるのさかなを歌いながら西洋ルネサンス期の旋法を素材にした音の響きを体験することが出来た。また、講師は「合唱団は『気を付け』の姿勢で歌うって誰が決めたの!？」など、参加者に向けて素朴に疑問を投げかける。今年の合唱セミナーは、合唱に関する知識や技術を学ぶとともに、松下氏の自然で自由なスタイルに触れることで、ふだんの合唱活動を柔軟に見つめ直す機会となったのではないだろうか。《松田》



1



2



3



4



5



6



7



8



9

現代音楽を楽しもう
清水靖晃(サクソフォン)

Bach - SaxOrgan - Space(3月8日)

サクスを武器に、バツハを触媒に、さまざまな「場」を「楽器」に変えていく鬼才・清水靖晃氏が登場。エントランスホールを舞台にオルガン(鈴木隆太氏の演奏)とのコラボレーションを行った。パフォーマンスは現代美術ギャラリーの「クロード・ヴェック展」会場からスタート。轟音と闇の中、点滅する光に照らされた白のジャンプスーツ姿の清水氏はエントランスホールの鈴木氏と信号音のようなフレーズを交わしながらゆっくりと移動、やがてスーツを脱ぎ捨てて会場の舞台に姿を現す。そして奏されたのは清水氏自作の緊張感に満ちたナンバー Tabanan。それが終わるとバツハの無伴奏チェロ組曲が鳴り響き、ソロと鈴木氏とのデュオとを交替させながらステージは進む。無伴奏チェロ組曲も、この日のために二人が準備したバツハフーガの技法も、オリジナルの構造を壊さずに演奏されつつ、型破りなフレーズや時折はさまれる強烈なブローによって、その形姿を変容させてゆく。クライマックスは複数の声部を無伴奏でパッチワークする離れ業を清水氏がしばし続けた後、突如としてオルガンが荘厳に鳴り渡るコントラプク투스第1番。そしてバツハ風のフレーズを猛スピードのユニゾンで奏する痛快な清水氏のライン0.29で本編は幕。アンコール、バツハのメロディの語尾を破裂させた清水氏はそのまま解体するような即興を行いつつ再びギャラリーへと消えた。《矢澤》

アンケートから 大変よかった。企画立案が良い。 さん 新たな試み。美術展との融合もおもしろい(鹿島市:M.H.さん) サクソフォンとパイプオルガンが一緒に奏でる 無伴奏チェロ組曲 は天国的な美しさで感動しました(水戸市:K.K.さん) 音楽って何だろうと、また違う自分を見させてもらった様な気持ちになりました。良いです!!(水戸市:T.T.さん)

水戸うらら女声合唱団 25周年記念演奏会
(3月9日)

中澤敏子さんの指導の下、今年結成25周年を迎える水戸うらら女声合唱団の記念演奏会。四半世紀の歩みを確かめるとともに、また新たな境地を拓こうとする団員の意欲みなぎるステージが展開された。前半2つのステージでは近年コンクール出場のために取り組んできた新実徳英と西村朗の作品が披露された。中でも特筆すべきは新実徳英の をとこ・をんな。これまで清らかで明るい曲想を得意としてきたという水戸うらら女声合唱団が、共演者のコントラバス溝入敬三さん、三絃野澤徹也さんの後押しもあって、この曲にひそむ女性の暗く深い情念を見事に表現した。続く後半、

終戦直後の流行歌をメドレーで綴る 東京物語(猪間道明編曲)は、水戸うららにとって初の試みとなる振付ステージとなった。語りを務めた中澤敏子さんの振付指導によって、最後の最後までリハーサルを重ねて作られたこのステージだったが、本番ではその苦勞を突かせ、途中で客席から手拍子が起こるなど大いに盛り上がった。最終ステージで演奏された高田三郎の女声合唱曲は水戸うららの十八番ともいえる曲。同合唱団の原点とも思える透明感溢れるハーモニーが随所で聴かれた。アンコールでは、まず平井康三郎の ゆりかご を演奏し、続く滝廉太郎の 花 は客席との全員合唱となった。合唱団の名のもととなった「春のうららの隅田川」と歌う声がホールいっぱいに響き渡り、演奏会の幕は閉じられた。《松田》
アンケートから とても美しくハモっていて言葉もはつきりとしていてとても良かったです。言葉が美しいのは歌のメロディーにも出ていて表情も良かったです。(青梅市:S.K.さん) ワンステージごとに趣がまるで異なり、2番目のステージは何か“うめき”にいた歌声で、いたたまれなくなりました。3番目のステージは皆全員がいきいきと楽しそうでした。(水戸市:無記名の方)

畑中良輔の 日本のうた セミナー第2期
第3回「平井康三郎」(3月15日)

日本のうた セミナーの第2期最後となる今回は、平井康三郎の代表作である歌曲集 日本の笛 をテーマに取り上げた。聴講される方にも、実際に声を出してレッスンに参加いただけるのが、このセミナーの人気の理由のひとつ。これまでも客席全員による発声練習や詩の朗読をレッスンに取り入れてきたが、今回は研究曲の中から 夏の宵月 を全員で斉唱した。ゲスト歌手のテノール中村健氏は、同歌曲集から 祭もどり 親舟子舟 など6曲を披露し、熟達した味わい深い歌唱を聴かせてくれた。アンコールは平井康三郎 ゆりかご。

なお、第3期第1回は8月3日(日)、平井康三郎の続編を予定しています。引き続き 日本のうた セミナーにご期待下さい。《松田》

アンケートから 受講者の皆さんの熱意がひしひしと伝わって来ました。畑中先生のユーモラスな身ぶり手ぶりに笑いがたえませんでした。又、歌詩を深く読み、感じ、表現する事がいかに大切かと教えて戴きました。私達も歌ったり有意義でした。(那珂郡:H.T.さん) とても楽しい!! 音楽は楽しい授業、と半世紀前に、武蔵野の女子高で畑中先生に教えていただきました。今日も全く変わらず、生徒さんが束の間に見事な歌を歌う生徒さんになるのを目の当たりにして・・・本当に楽しい授業です。(笠間市:T.C.さん)



* nettama= ネットワークする猫、タマ。芸術館のコンサートをサカナにいるんなところへnettamaします。

名曲の「異版」を聴く

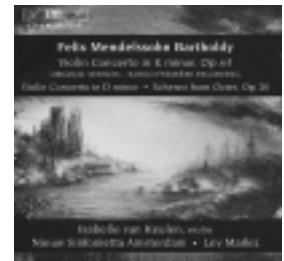
水戸室内管弦楽団とミリヤム・コンツェンがメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を演奏するというので、ずいぶん久しぶりに聴き直した。ああ、いい曲だなあ、まるで泉がわき出るみたいに自然に音楽が流れて。メンデルスゾーンの頭の中ではきっとこんこんと音楽があふれていて、音符に書き留めるのがおいつかなかったくらいじゃないのかな...なんて思っていたら「とんでもない、僕がこの曲書くのにどれだけ苦労したかわかる？」とメンデルスゾーンの声が頭の中に響いてきてびっくりした。そうだこの曲、名ヴァイオリニスト、ダーヴィドに依頼されてから完成するまで6年もかかったんだよね。しかも初演のときはまだ草稿状態で、その後出版するまでにまたかなりの手が加えられて、ようやく僕たちが知っている今の姿になったという。

そんなことを思い出していたら、数年前にこの協奏曲に関する面白いCDが出ていたことを思い出し、さっそく入手することにした。聴き慣れた現行版ではなく、1989年に再発見された初演時(1844年)の草稿、つまりオリジナル・ヴァージョンを使用した初録音、というものだ。演奏はイザベル・ファン・クーレンのヴァイオリンとレフ・マルキス指揮する新アムステルダム・シンフォニエッタ(BIS-KKCC2273)。僕が買った輸入盤の解説によると、現行版とはなんと120箇所もの違いがあり、それが一覧表になっている。まずびっくりするのは第1楽章が現在の「アレグロ・モルト・アパッシオナート(快速に、とても熱情的に)」ではなく「アレグロ・コン・フォーコ(快速に、燃えるように)」と指示されていることだ。実際の

譜面上では、第1楽章のカデンツァをはじめソロ・パッセージの幾つかが違うといったわかりやすいものをはじめ、ティンパニやオーボエが意外なところで聞こえてきたり、ソロ・パートにフルートが重ねられていたり、弦がアルコ弓で弾くところがピッチカートになっていたり、さらには強弱記号や発想記号の微妙な違いなど、枚挙にいとまがない。かなり細かいものが多いので、一覧表と出版譜と照らし合わせながら聴くといっそう面白い。どちらの版がよいかの判断は聴く方にお任せしたいけれど、とにかく120箇所ですよ、120箇所。曲のフォルムが完成した後でも、より効果的に、より説得力ある表現を求める作曲家の執念に頭が下がる思いだね。メンデルスゾーンは、交響曲「イタリア」も初稿に納得が行かず改訂を施しており、2つの稿をガーディナー指揮ウィーン・フィルの演奏で聴き比べることができる(グラモフォン・POCG10143)。苦労知らずの優等生的秀才、みたいなイメージを持たれるメンデルスゾーンが、実際にはどんな努力と苦闘をしていたか、こういう例を聴くとよくわかる。

メンデルスゾーンに限らず、大作曲家の名曲の「異版」は、創造者たちが自作に「完成」のハンコを押すまでの思考の軌跡をライブに伝えてくれる貴重なドキュメントだ。極端な例ではブルックナーがいるけど、ほかにもいろいろある。たとえばグリーグのピアノ協奏曲のオリジナル稿(デルウィンガーのピアノ、広上淳一指揮ノールショッピング交響楽団、BIS-CD619輸入盤)、おおい、頭のティンパニ・ロールに弦のピッチカートとチューバ、ホルンが重ねられてるぞ！えっ、あのリリカルな第2主題がチェロじゃなくてトランペッ

トで奏されてるっ！さらにびっくりは、シベリウスのヴァイオリン協奏曲のオリジナル稿(カヴァコス)のヴァイオリン、ヴァンスカ指揮ラティ交響楽団、BIS-CD500輸入盤)冒頭のオーケストレーションからして全然違うし、ソロは聴いたこともないパッセージを連発、そこかしこにまったく未知のマテリアルが出現。同じ盤に収められている現行版より5分も長い。まだまだあるぞ。ヤナーチェク「グラゴル・ミサ」のオリジナル稿はいきなり現行版の終曲「イントラダ」が轟いて始まるし「イントラダ」で全曲をとりかこむ、いわば枠構造が意図されていたことがわかるのだ(マクケラス指揮デンマーク国立放送交響楽団、シャンドス-MCHAN9310)マーラーの交響曲第1番のオリジナルは1楽章多い5楽章構成だ(若杉 弘指揮東京都交響楽団、フォンテック-FOCD9093~108、交響曲全集版)ヴォーン・ウィリアムス「ロンドン交響曲」の、現行版よりずっと長いオリジナル稿も復活した。大パツハの「マタイ受難曲」だって初期稿がある(樋口隆一指揮・明治学院パツハ・アカデミー、明治学院サービスBAMG0001~3)。政治的な圧力によって改訂させられた20世紀的な例としてはショスタコーヴィチのオペラ「ムツェンスク郡のマクベス夫人」から「カテリーナ・イズマイロヴァ」への改訂の例がある。それから...なんだかどれが「正しい」のかわからなくなってきたのでここで打ち止め！



メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 (オリジナル稿)CD

「高山三智子 ピアノ・リサイタル」の延期について

お詫び

高山三智子

沢山の方々に多大、甚大なる御迷惑をお掛けしてしまつた事を恥じ、深く深くお詫び申し上げます。「楽しみにしていたのに残念」というお言葉をいただいた時、有難さと嬉しさに涙が止まりませんでした。今回の入院がどの位、時間を奪ってしまうのか、まだ分りませんが、次回、舞台でお目に掛かる時、やっぱり待っていて良かったと思っただけの演奏が出来る様にと強く決心しております。最大に感謝すべき事は、担当の中村さんを始め、芸術館のスタッフの方々の敏速かつ適切な処理、そして温かい御配慮に深く敬意を表しておりますと共に、温かい皆様方のやさしいお言葉に、日本もまだまだ捨てたものではないと教えられました。

4月25日(金)に予定していました「高山三智子 ピアノ・リサイタル」公演は、出演者急病の為、開催を延期させていただくことになりました。公演を楽しみにして下さっていた皆様には、大変ご迷惑をおかけしました。

なお、延期公演の日程は、決まり次第、本紙上でもお伝えいたします。

5月1日現在、未だ入院中の高山三智子さんより、メッセージが届きました。ここに掲載します。

突然の激痛が夜中に襲い救急車で運ばれ即刻入院。それが4月21日の早朝の事。1日だけ入院して、どうしても演奏会を行うと何も疑わず思っている所へ、医者はそんな事をしたら命に関わるとアキレ顔。でも、でも、私が演奏会を行わないなんて、自分の人生観(音楽観)から考えても許せる訳なく、まして病気になるなんて、もっと許せない。終わってからなら、まだしも、なんたる事！結局、入院しても丸3日間は苦しさの中でベッドを転げ回り、4日目から少しずつ落ち着き始めました。私の不注意から

information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000
営業時間 / 9:30 ~ 18:00 (月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM水戸【FM水戸アップデート】木曜日18:15頃~15分ほど(不定期登場) 水戸周辺83.2MHz、日立周辺84.2MHz。

「水戸の街に響け! 300人の《第九》」コーラス参加者募集

1999年、2000年に開催し、年末の水戸の街に高らかな歌声を響かせたあの《第九》が、3年ぶりに帰ってきます。これにともない、一般公募によるコーラスの参加者を大々的に募集します。“やる気”さえあれば、経験がなくても参加できますので、奮ってご応募ください。詳しくは、応募要項をご覧ください。

総監督:畑中良輔

指揮:鈴木良朝

合唱:一般公募の参加者、及び茨城県合唱連盟・水戸市合唱連盟

合唱指導:茨城県合唱連盟指導者

器楽合奏:小林由佳・武元彩子(エレクトーン)、中村真由美・中村佳代(ピアノ)、中村文彦(ティンパニ)ほか

公演日:2003年12月21日(日)

応募受付期間:7月15日(火)~7月31日(木) 当日必着

【応募要項の請求方法】ご自身の住所、氏名を明記した返信用封筒(80円切手を貼付のこと)を同封し、下記までお送りください。直接ご来館の場合は、エントランスホール・チケットカウンターまでお申し出ください。また、インターネットの水戸芸術館ホームページからもPDFファイルで入手可能です。〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 水戸芸術館音楽部門《第九》係 TEL:029-227-8118(担当:関根)

チケット・インフォメーション 5月31日(土)発売分

あひる会合唱団演奏会

7/6(日)14:00開演

料金(全席自由):¥1,500

フィオレンツァ・コッソット メゾ・ソプラノ リサイタル

7/27(日)14:00開演

料金(全席指定):A席¥5,000 B席¥4,000

P席(ステージ後方)¥3,000

タラフ・ドゥ・ハイドゥークス 東欧義賊楽団

8/24(日)16:00開演

料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000

これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

水戸室内管弦楽団第54回定期演奏会

6/7(土)

...中央x、左右・裏

6/8(日)

...中央x、左右・裏

5/13(火)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な6月のスケジュール

コンサートホールATM

水戸室内管弦楽団 第54回定期演奏会

6/7(土)18:30開演、6/8(日)14:00開演

料金(全席指定):S席¥6,000 A席¥5,000 B席¥4,000

エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート

6/14(土)13:30/15:00 6/22(日)12:00/13:30

6/28(土)13:30/15:00 6/29(日)12:00/13:30

入場無料 演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

謡と仕舞の会

6/1(日)10:00開演 入場無料

三曲各流演奏会

6/15(日)13:00開演 入場無料

現代美術センター

椿昇「国連少年」

3/23(日)~6/8(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)

入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600 中学生以下、65歳以上、各種障害者手帳をお持ちの方は無料

いけばな展

6/20(金)~6/22(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)/最終日は9:30~17:00(入場は16:30まで) 入場無料

美術展覧会 第1期:日本画・洋画・彫刻・工芸美術

6/29(日)~7/11(金)9:30~18:00(入場は17:30まで)

入場無料 休館日:月曜日

茨城の主な6月の演奏会

常陽藝文センター TEL/029(231)6611 藝文友の会会員優待催事 クラシック・ア・カペラ アンサンブル・プラネタ リサイタル 6/28(土)18:30開演

茨城県民文化センター TEL/029(241)1166 津軽三味線 吉田兄弟 LIVE FRONTIER YOSHIDA KYODAI 6/6(金)19:00開演 第29回 茨城県新人演奏会 6/8(日)13:00開演 グランディーババレエ団 Celebrate and Experience Japan Tour 2003 6/28(土)17:30開演

水戸市民会館 TEL/029(224)7521 茨城大学管弦楽団 第28回サマーコンサート 6/28(土)14:00開演 (問)土門 TEL/090 4712-5289

ひたちなか市文化会館 TEL/029(275)1122 宮本文昭(オーガ) with 渡辺香津美(ギター) コンサート 6/27(金)19:00開演

日立シビックセンター TEL/0294(24)7711 日立シビックセンター音楽シリーズ 2003「アンサンブルの祭典2003コンサート 第13回ひたち室内楽フェスティバル」 6/21(土)公開レッスン10:20開始/コンサート16:30開演

ギター文化館 TEL/0299(46)2457 パラグアイ ハープトリオ コンサート 6/8(日)15:00開演

ノバホール TEL/029(852)5881 キャスリーン・バトル&新イタリア合奏団演奏会 6/14(土)15:00開演 つくばフィルハーモニー合唱団 国際交流奨励賞受賞記念演奏会 6/29(日)14:00開演

鹿嶋勤労文化会館 TEL/0299(83)5911 ニュークレモナ フィルハーモニーオーケストラ 演奏会 6/1(日)14:30開演 (問)ニュークレモナ フィルハーモニーオーケストラ TEL/0299(93)2154

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2003年6月発行 第90号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):関根哲也 中崎美智代 中村 晃 馬場千恵

松田善幸 矢澤孝樹(編集長)

DTP / office west

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...夏を燃え立たすディーヴァと義賊たち、そしてあひる!